

2021 年度入試状況分析【国公立大】

※本文内の（ ）内の数値は志願者数の前年度確定数との対比指数を表します。

◎志願者数が多い大学

□志願者数最多は、6年連続で千葉大

[志願者数上位 10 大学]

大学	2021年度			2020年度			志願者 増減数	志願者指数	
	募集人員	志願者数	志願倍率	募集人員	志願者数	志願倍率		2021年度 ／ 2020年度	2020年度 ／ 2019年度
千葉大	2,069	11,565	5.6	2,084	10,212	4.9	+1,353	113	96
神戸大	2,301	10,236	4.4	2,311	9,315	4.0	+921	110	94
東京大	2,960	9,089	3.1	2,960	9,259	3.1	-170	98	98
北海道大	2,442	8,621	3.5	2,436	9,752	4.0	-1,131	88	94
大阪府立大	1,153	8,057	7.0	1,165	8,089	6.9	-32	100	96
東京都立大	1,097	7,758	7.1	1,194	7,885	6.6	-127	98	92
九州大	2,251	7,629	3.4	2,335	7,241	3.1	+388	105	96
京都大	2,658	7,424	2.8	2,635	7,699	2.9	-275	96	96
富山大	1,435	7,231	5.0	1,429	7,312	5.1	-81	99	87
大阪大	2,878	6,991	2.4	2,878	7,462	2.6	-471	94	99

※志願者指数は前年度の志願者数を100とする指数

上の表は、文部科学省発表の最終確定値、大学全体の志願者数が多かった国公立大の上位 10 大学をまとめたものです。志願者数が 7,000 人以上だった大学は 9 大学で、前年度より 2 大学少なくなりました。ただ、前年度は 10 大学が全て減少だったのに対して、今年度は増加した大学が 3 大学ありました。10 大学のうち、第 3 位の東京大、第 10 位の大阪大はいずれも前期のみの募集です。第 8 位の京都大の後期は、特色入試として実施の法学部のみ募集です。また、第 5 位の大阪府立大は中期でも募集している大学です。

2021 年度入試での志願者数が最も多かったのは、6 年連続で千葉大でした。志願者数は今年度も 1 万人を上回り、2010 年度から 12 年連続で志願者数が 1 万人を上回りました。

第 2 位の神戸大は、3 年連続減少の反動もあって 900 人以上の増加で、2017 年度以来 1 万人を上回りました。難関大の中では共通テストの比重が比較的高く、さらに個別試験が標準的な出題なので、共通テストが高得点を取りやすかったことで目標得点をクリアできた層がそれを生かして出願したことが要因です。

第 4 位の北海道大は、2 年連続減少で、1,000 人以上の減少となりました。難関大の中では、他県からの入学者が多い大学ですが、コロナ禍で道外からの志願者数が減少しました。

第 5 位に大阪府立大、第 6 位に東京都立大という大都市圏の公立大が入っています。いずれも募集人員は 1,200 人にも満たない大学ですが、一部の学部で大阪府立大では中期での募集を、東京都立大では共通テスト 3 教科型の募集を行っています。こういった、他の国公立大や私立大との併願者を多く獲得できる入試方式を実施している効果もあり、受験生数が多い大都市圏に立地する利点と難易度が最難関大に次ぐ位置ということも有利に働き、志願者数が多くなっています。なお、大阪府立大は、2022 年度から大阪市立大と統合し大阪公立大となり、公立大学では国内最大規模の大学になります。

第 7 位の九州大は、3 年連続減少の反動で増加となり、千葉大、神戸大と並んで増加した大学となりました。

大都市圏以外の大学では、第 8 位に富山大が入っています。北陸新幹線の開通以降、首都圏からの交通の利便が良くなり志願者数が増加した大学ですが、今年はコロナ禍の影響でその効果は無かったものの、地元志向と目標得点がそれほど高くないことが出願動向に影響し、81 人 (99) の微減に留まり、志願倍率 5 倍を維持しました。